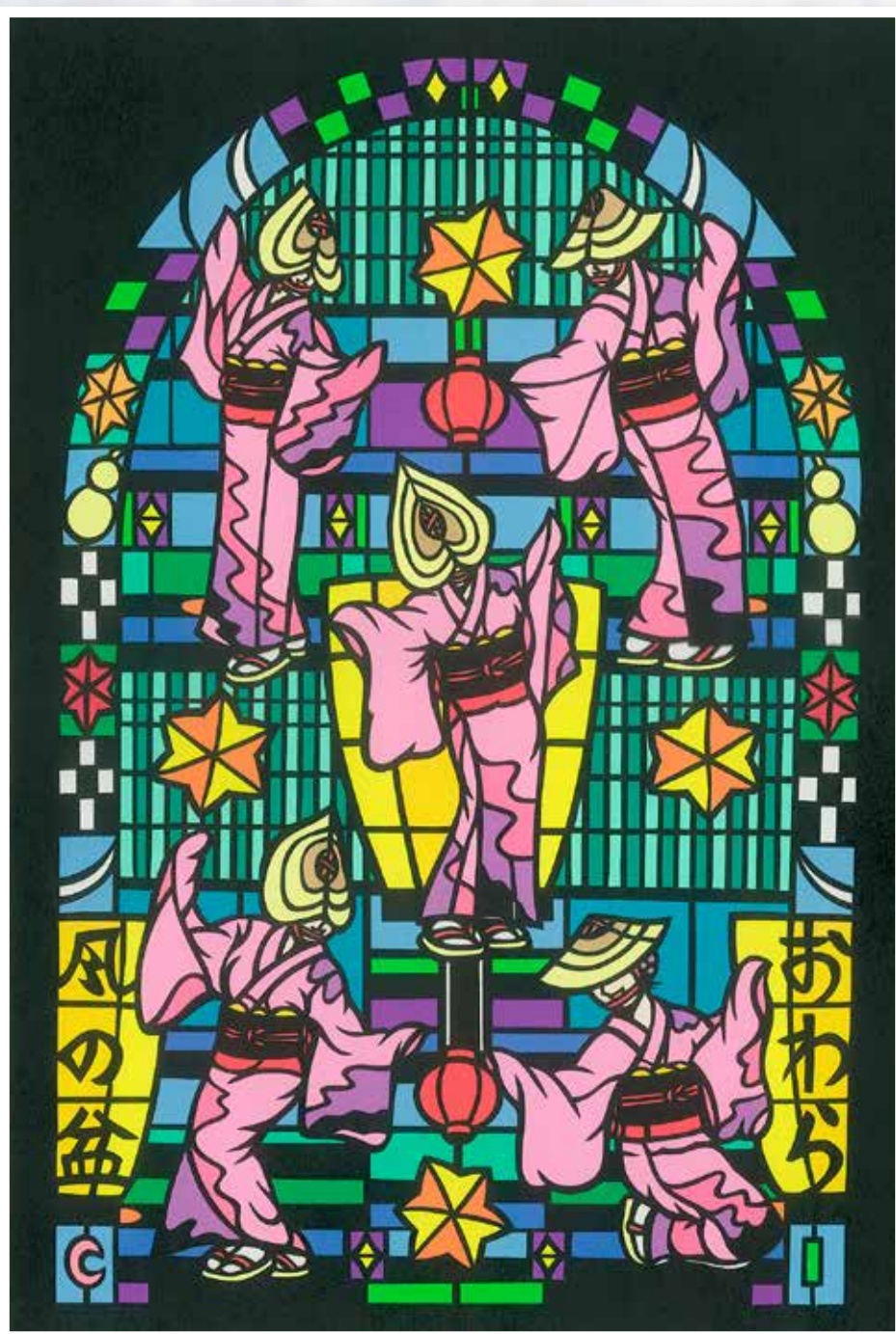


仰岳会

会 報
第56号

80th
Anniversary

仰 岳 会 創 立
80周年記念誌



ステンドグラス・おわら風の盆

2025年 5月吉日

仰岳会会員各位

仰岳会会長 末 岡 宗 廣

2025年度 仰岳会通常総会・講演会および懇親会のお知らせ

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2025年度仰岳会通常総会を、富山支部と合同で下記の通り開催いたします。あわせて講演会および懇親会を催しますので、会員の皆様にはお誘い合わせのうえ、多数のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

日 程 2025年 7月26日（土）
場 所 パレプラン高志会館
〒930-0018 富山県富山市千歳町1-3-1
TEL：076-441-2255 <https://www.koshikaikan.com/>

富山支部総会 午後1時20分～
本 部 総 会 午後2時00分～3時15分
講 演 会 午後3時30分～4時30分

講 師：田端 俊英 氏（富山大学工学部副学部長）

講演題目：富山大学創造工学センター：ものづくり実践アクティブラーニングと学生の活躍

講演要旨：富山県は人口に占める工業従事者率が全国でもトップクラスである。そのような地域において、地元拠点に置く国立総合大学である富山大学は工業分野で活躍できる人材を輩出することが責務となっている。工業県富山においては、開発から製産、上流から下流の工程などものづくりの全てのプロセスがさかんであることから、工学部あるいは関連する大学院（理工学研究科、医薬理工学環など）の出身者には、工学の学理を習得しているのみならず、ものづくりの現場感覚を知っていることが求められている。創造工学センターは工学部の敷地内にあり、工学部を中心に全部局の学生が自主的にものづくりを行うことができる工作室であり、ものづくりの現場感覚をアクティブに学修する場となっている。今回の講演では創造工学センターにおける教育活動、学生の活躍の様子を紹介する。創造工学センターでは学生ロボットコンテスト、学生フォーミュラカーをはじめとする多くの学生プロジェクトが毎日夜遅くまで工作機器の音を響かせている。各プロジェクトには顧問教員が配されているものの、プロジェクトの運営、マシンの設計、部品レベルからの製作、スポンサー企業との交渉、一般市民向けの展示、全国競技会への遠征などをほぼ完全に学生だけで行っている。これら学生プロジェクトは女子学生の参加比率が多いことも特徴で、ものづくりの魅力が多様な学生を惹きつけていることが分かる。工学部としては、このような学生の存在を地元産業界に広く知ってもらい、また創造工学センターの教育活動に協力していただき、ものづくりの現場感覚を身に付けた優秀な人材が地元産業界で一層活躍できるようにしたいと考えている。

講師略歴： H2.3 大阪大学人間科学部人間科学科卒業、社会学士
H2.4～H4.3 大阪大学大学院医学研究科修士課程修了、医科学修士
H4.4～H8.3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了、博士（医学）
H5.4～H9.4 Section of Neurobiology, University of California, post-graduate/-doctor researcher
H9.5～H10.3 理化学研究所脳科学総合研究センター、研究員
H10.4～H17.5 金沢大学医学部助手、学部内講師
H17.6～H19.3 大阪大学医学部助教、学部内講師
H19.4～H20.3 東京大学医学部、客員研究員
H20.4～H30.6 富山大学工学部知能情報工学科、准教授
H30.7～現在 富山大学学術研究部工学系、教授、副工学部長（R5.4～）、創造工学センター長（R5.4～R7.3）、工学部評議委員（R7.4～）、大学院医薬理工学環長（R7.4～）

専門 神経科学、電気生理学、ヘルスケア機器開発

懇親会 パレブラン高志会館
午後5時より 会費 7,500円
卒業3年以下（令和5年3月～令和7年3月卒業生は懇親会費無料）

※6月27日（金）までに出欠を綴じ込みハガキにてお知らせください。

以上

富山大学統合20周年記念式典・記念シンポジウムの開催について

2005年10月1日に当時の県内3国立大学法人が再編・統合を行い、新たな国立大学法人富山大学が発足してから本年をもって20年の節目を迎えることとなります。そこで下記のとおり統合20周年記念事業が開催されることとなりました。

開催日時：2025年10月1日（水）

13時～13時20分 記念式典

13時25分～16時 記念シンポジウム（記念パネルディスカッション）

Part1：「富山大学の今」

パネラー：中尾哲雄氏、学長、他

Part2：「富山大学NEXT20年に向けて」

パネラー：本学卒業生、大学院生、学部生

16時30分～ 懇親会

開催場所：記念式典・記念シンポジウム：富山大学黒田講堂ホール
懇親会：富山大学学生食堂

※現時点の予定であり、確定次第、富山大学ホームページに掲載しますのでご覧ください。

ほくりく技術士未来研鑽会と 富山大学工学部・都市デザイン学部共催 技術士受験講習会のお知らせ

ほくりく技術士未来研鑽会と富山大学工学部・都市デザイン学部の共催で、技術士試験受験講習会を開催いたします。現在、講習会時の講師陣以外にも、添削専任として複数部門の技術士を含めて、多彩なスタッフで開催中です。

また、遠方にお住いの受験生の為、今年度も第1回と第3回の受験講習会には対面式講習会と併設でWEB講習会に対応いたします。

開催時期、応募方法等詳細な情報は、仰岳会ホームページに掲載しています。併せてご覧下さい。

1. 令和7年度（2025年度）技術士第二次試験受験講習会実施予定

1－1. 第1回受験講習会（講義形式の筆記試験準備・受験願書（経歴・小論文）対策講座。）

2025年3月22日（土）開催済

例年3月中下旬頃 富山駅近辺で開催

13:00～17:30 講義形式講習会（WEB講習会併設／願書添削のみも対応可）

※受験講習会後日の受験願書（経歴・小論文）のメール形式での添削対応
および個別指導付。

18:00～20:00 交流会：富山駅近辺

1－2. 第2回受験講習会（筆記試験の模擬試験（選択科目Ⅱ・Ⅲのみ））

添削対応および個別指導。

2025年6月14日（土） 富山駅近辺で開催予定

13:00～17:30 筆記試験模試（論文添削付／論文添削のみも対応可）

※希望者のみ必須科目Ⅰの自作論文1点のみ追加添削可。

18:00～20:00 交流会：富山駅近辺

1－3. 第3回受験講習会（口頭試験指導：筆記試験合格者）

（2025年度版・過去10年分）の配布。

2025年11月下旬頃 富山駅近辺で開催予定（WEB口頭模試併設）

13:00～17:00 口頭試験模試

17:30～19:30 交流会：富山駅近辺

2. 受講料：①各講座直接講義参加：6,000円（後日添削指導等込）

②WEB講義参加（第1回・第3回対応）：5,000円（後日添削指導等込）

③講義不参加・e-mail添削のみ（第1回・第2回対応）：3,000円

※交流会会費：5,000円程度（希望者のみ）

3. お問い合わせ：ほくりく技術士未来研鑽会 事務局 富山県高岡市福岡町矢部790-8

TEL (0766) 64-8821 e-mail: hokugiken@atec-1.com

技術士受験講習会事務局：岩田清幸 e-mail: iwata.kiyoyuki@gmail.com

※受講を検討される方は、氏名、所属、連絡先を記載の上、上記の事務局へe-mailでご連絡
ください。日程決定後に、講習会のご案内を送らせていただきます。

※感染症の流行等により内容変更の可能性があることをご承知おきください。

以上

仰 岳 会 会 報

第 56 号

仰 岳 会

〒930-8555 富山県富山市五福3190
(富山大学工学部内)

目 次

《巻 頭 言》

創立80周年記念事業を終え、新たな出発へ……………仰岳会会長 末岡 宗廣（1）
（電気 昭和49年度修）

《ご 挨拶》

～富山で学ぶ魅力～……………富山大学工学部長 小熊 規泰（2）

《仰岳会創立80周年記念祝辞》

富山大学工学部・仰岳会創立80周年を祝して……………富山県知事 新田 八朗（3）
工学部の永遠の発展を祈って 祝 創立八十周年

経済学部同窓会 最高顧問 中尾 哲雄（4）

仰岳会創立80周年に寄せて……………越嶺会会長 伍嶋二美男（5）

富山大学工学部・仰岳会 80周年記念誌 祝辞……………富山大学長 齋藤 滋（6）
自分の可能性が大きく広がった4年間

株式会社ModelingX 取締役 / CTO 織田 拳丞（7）
（知情 平成30年度卒）

富山大学工学部80周年記念行事報告……………（8）

工学部・仰岳会80周年記念コンペ……………國谷 吉英（11）
（電気 昭和48年度修）

富山大学工学部基金……………（12）

年 表……………（13）

富山大学工学部80周年記念特集……………（16）

仰岳会歴代会長……………（19）

仰岳会歴代副会長……………（20）

仰岳会役員名簿……………（21）

工学部年度別卒業生数……………（23）

歴代工学部長……………（24）

《仰岳会だより》

2024年度

富山大学工学部卒業

大学院理工学研究科・大学院医薬理工学環・大学院理工学教育部修了 記念祝賀会
（25）

2024年度 教育支援活動等の報告……………（27）

《大学だより》

退任教員の挨拶

定年退職のご挨拶……………電気電子工学コース 教授 鈴木 正 康（28）

新任教員の紹介

着任のご挨拶……………知能情報工学コース 教授 川 口 俊 宏（29）

着任ご挨拶……………知能情報工学コース 助教 張 子 航（29）
（博数ヒ 令和6年度修）

着任のご挨拶	機械工学コース 助教 松 林 蒼 二 (30)
	(博数ヒ 令和6年度修)
着任のご挨拶	機械工学コース 助教 Sukanthakan Ngernbamrung (30)
	(博数ヒ 平成30年度修)

《同窓会だより》

電気工学科 同窓会	宇田川 静 夫 (31)
	(電気 昭和46年度卒)

《本部だより》

2024年度 (第72回) 仰岳会総会報告	(32)
2024年度 仰岳会役員名簿	(32)
2024年度 事業報告	(33)
2023年度決算報告、2024年度予算	(34)

《支部だより》

東海支部	(35)
関東支部	(38)
関西支部	(41)
富山支部	(43)
石川・福井支部	(46)
信越支部	(48)
東北支部	(50)
中国支部	(52)
九州支部	(54)
四国支部	(56)
支部収支決算一覧	(58)

《寄付のお願い 寄付者ご芳名》	(59)
-----------------	------

《事務局だより》

原稿募集・広告掲載のご案内・申込先	(60)
新入会員名簿 (氏名及び卒業学科)	(61)

《広告》	(64)
------	------

《富山大学基金便り》	(71)
------------	------

《表紙説明》

会報表紙説明 (岩田長峯氏の紹介)	(75)
-------------------	------

《編集後記》	(76)
--------	------



創立80周年記念事業を終え、 新たな出発へ

仰岳会会長 末 岡 宗 廣
(電気 昭和49年度修)

大空を見上げていると、青空の上に138億年の時を経て広大な宇宙が展開しているかと思い、何か感慨深いものを感じます。わずか直径10万光年の天の川銀河の端にある太陽系の地球で日本という小さな島国の四季に豊んだ生命あふれる富山に住み、日本アルプス特に立山連峰を仰ぎ見ながら富山大学で学んだことにロマンと誇りを持ちたい。富山大学工学部同窓会が“仰岳会（こうがくかい）”と名付けられたのはこういう同窓生の思いを象徴するものとして名付けられました。

おかげさまで、昨年創立80周年を迎え、数々の記念事業が行われました。特に記念式典や懇親会は例年とは違い、大学のキャンパスで行われました。工学部の研究室の紹介もあり、OBは学生時代に戻って学び、学生や教師の皆さんは自らの研究をリアルにアピールできました。

懇親会では、新しく仰岳会の名誉会員になられた中尾氏の記念講演で教わった“通信”——人間社会はITも大事だが、心のこもったコミュニケーションがもっと大事。信を通わすこと——の実践とばかりに、数々の富山の銘酒を酌み交わしながら、肩の擦りあう混雑の中で、学生共々に和気あいあいと工学部の将来を語り盛り上がりました。

今回は準備期間がわずか1年足らずの短期間でしたが、工学部基金の立ち上げ、地元富山県民へのアピール（新聞やTV）、学生とOBとの熱い交流等の成果がありました。

あらためて工学部とその関係者の現場対応力の強さ、地元マスコミ関係の地元愛と地元の工学部に対する期待の大きさに感動しました。

富山県知事をはじめとした地元の皆さんからの暖かい激励、そして記念事業に協力頂いた関係者の方々の御尽力に深く感謝いたします。

今後は、もっと学生とOBとの交流を盛んにし、同窓の連帯を強め、地元や社会へのアピールも欠かさず、富山に礎を置き、世界を翔る更なる工学部の発展に応援をしていきたいと思っています。

尚、今年は富山大学統合20周年の節目の年です。今や富山大学は9学部からなる総合大学になりました。開学記念日（10月1日）にその記念式典が黒田講堂で行われます。同窓会連合会は主催者の富山大学と共に、共催の立場で協力していきます。同窓会連合会の一員である仰岳会は富山大学の発展のために、積極的に協力していきます。今後とも、仰岳会の会員をはじめとして皆様方の変わらぬ暖かいご指導ご鞭撻をいただき、一層心強いご協力ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

ご挨拶



～富山で学ぶ魅力～

富山大学工学部長 小 熊 規 泰

富山大学工学部の教育研究活動に日頃よりご支援ご厚情を賜り、心から厚く御礼申し上げます。富山大学工学部の同窓会誌（仰岳会会報）を通じて、皆様と繋がることができていることを大変嬉しく思います。私たちの母校である富山大学工学部は、これまで多くの優れた技術者や研究者を輩出し、社会に貢献してきました。皆様のご活躍は、私たちの誇りであり、励みとなっています。この仰岳会会報は、皆様の近況報告や活動報告を共有する場であると同時に、富山大学工学部の最新の研究成果や教育活動についてもお伝えする場です。

昨今、技術革新のスピードはますます加速しており、私たち技術者・研究者に求められる役割も多様化しています。AIやIoT、再生可能エネルギーなど、新しい分野での挑戦が求められる一方で、持続可能な社会の実現に向けた取り組みも重要視されています。富山大学工学部は、これらの課題に対して積極的に取り組んでおり、最先端の技術と知識を世の中へ提供することを目指しています。加えて、大学院進学率が70%近くとなり、共に研究に取り組んだ学生たちが未来のリーダーとして成長できるよう、より良い教育環境の整備に努めています。まずは機械棟から改修工事に取り掛かり、昨年末にⅠ期工事を終え、イノベーション・コワーキングスペースを新設するためのⅡ期工事の概算要求をしているところであります。工学部全域を20年かけて改修していく計画ですが、これを早期に確実に実現させるためには、同窓生の皆様のご支援とご協力が必要不可欠でございます。

同窓生の皆様におかれましても、それぞれの分野でご活躍されていることと存じます。皆様の経験や知識は、後輩たちにとって大きな財産です。是非とも同窓会活動を通じて、後輩たちへのアドバイスやご支援をお願い申し上げます。また、仰岳会会報を通じて、皆様の成功事例や挑戦のエピソードを共有していただければ幸いです。

さて、2025年「行くべき都市」の30位にランキングされた富山市の魅力は皆様にとってご存じのとおりかもしれませんが、富山大学工学部を受験したくなるようなPRポイントの一つとして県外高校生に宣伝もし、富山がものづくり立県の特徴だけでなく、自然との調和、文化的な魅力、「すしといえば富山」などのグルメがリーズナブルに堪能できることも、卒業後の地元就職の良さとして一考してもらえるように学生には伝えています。同窓生の皆様も、見違えるようにスマートシティに変貌した「行くべき都市」富山に是非とも足を運んでいただければと存じます。

最後に、富山大学工学部のさらなる発展と、同窓生の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。これからも引き続き、富山大学工学部をご支援の程よろしくお願い申し上げます。

仰岳会創立80周年記念祝辞

富山大学工学部・仰岳会 創立80周年を祝して

富山県知事

新 田 八 朗



このたび、富山大学工学部および仰岳会が創立80周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴学部は、昭和19年に高岡工業専門学校として設立以来、これまで22,000人余りの優秀な人材を輩出され、学び舎を巣立った卒業生の皆さんは、産業界を中心に、官界、教育界など、各界において大きく活躍されています。

これもひとえに、小熊規泰学部長をはじめ歴代学部長並びに教職員や関係の皆様のたゆまぬご努力の賜であり、心から敬意を表します。

近年は人口減少・少子高齢化やデジタル化の進展、生活様式の変化など、私たちを取り巻く社会環境は急速に大きく変化しています。社会が求める人材ニーズも変容し、企業や自治体からはデジタル技術を活用して課題解決を図ることができるデジタル人材のニーズが増大しています。

このため、県では各分野で本県の活力を支え、発展の礎となる「未来に向けた人づくり」を進めるとともに、富山県の産業・地域社会のDXを推進し、デジタルソリューションによる地域課題の解決を通じて、県民のウェルビーイングな生活につなげていきたいと考えています。

貴学部では、豊かな人間性をもった優秀な技術者や研究者の育成、地域との連携推進、各産業分野の開発研究や技術力の向上への貢献を使命に、専門的な知識を養える5つのコースを設け、各コースでデータサイエンスを学べるカリキュラムを定められるなど、時代のニーズに合致した教育体制を整えられており、大変心強く感じています。

今後とも、社会が求める人材の育成に力を尽くされますとともに、本県の産業・技術の発展のため一層お力添えをいただきますようお願い申し上げます。

結びに、富山大学工学部および仰岳会が、これまでの80年の歴史を礎にさらに大きく飛躍され、今後とも、輝かしい伝統を築いていかれますことをご期待申し上げますとともに、ご関係の皆様のますますのご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、お祝いの言葉といたします。



仰岳会創立80周年記念祝辞

工学部の永遠の発展を祈って 祝 創立八十周年

経済学部同窓会 最高顧問

中 尾 哲 雄



工学部80周年、おめでとうございます。その記念すべき日に、講演する機会をいただきました。ありがとうございました。

さて、われらが富山大学の源流を遡ってみますと西南戦争（明治10年）の前、明治8年に教育学部の前進、新川県師範学校が産声をあげ、以後、薬学部は共立富山薬学校、人文学部は富山高等学校（旧制）、経済学部は高岡高等商業学校、そして工学部は高岡工業専門学校を前身として発足し、いま80周年を迎えたのであります。

この80年の歩みは20世紀そのものであり、この間に人類はそれ以前の人類の歴史以上の変化を経験いたしました。わが国もこの間、近代国家への道を進み、途中、大きな戦争も経験しましたが、それらの苦難を乗り越えて今日の繁栄を築いたのであります。

工学部同窓生もこの激しい変化の中に身をおき、各々がそれぞれの立場でさまざまな役割を果たしてこられました。この半世紀、工学部卒業の諸先輩が活躍されてきた様子を見てまいりました。

しかし、単に過去をなつかしみ、回想するだけではなく、80周年にあたり、史実を認識することにより、母校とは何か、伝統とは何かを考え、時代を超えて脈々と流れ、引き継がれていく工学部の精神と同窓の連帯を確認し合っていただきたいと思います。

わが国経済社会の将来は必ずしも明るいとはいえません。危機的状況にあるといえるかもしれません。高齢化社会の本格的な到来、国際情勢も極めて不安定な状況にあり、悲観論が強まっています。

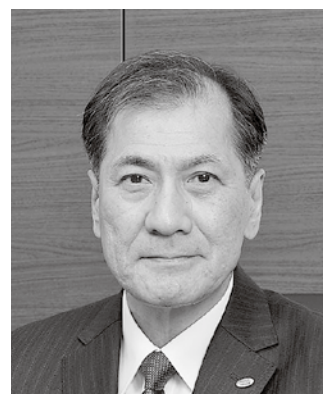
これらを排し、わが国の再生、そして将来を考えていかねばなりません。われらの目指すべき方向は明らかであります。

富山大学工学部に誇りを持ち、同窓の連帯を強め、社会を動かしていく力になっていただきたいと思います。

仰岳会創立80周年記念祝辞

仰岳会創立80周年に寄せて

あいの風とやま鉄道株式会社 代表取締役社長
富山大学経済学部同窓会「越嶺会」会長
伍 嶋 二美男



富山大学工学部および同窓会である仰岳会が創立80周年という大きな節目を迎えられ、心からお祝い申し上げます。これまで長きにわたり、先端工学技術の研究開発や、高い技術力を持つ有為な人材育成に努められ、ものづくり県である富山を担う県内企業をはじめ多様な地域産業を支えてこられましたことに、深く敬意を表するとともに感謝申し上げます。

富山大学工学部と令和6年度に創立100周年を迎えた富山大学経済学部（同窓会である「越嶺会」）は、ともに大正13年に設立された高岡高等商業学校と繋がりが深く、学部として各々独立した後も互いに交流を重ね切磋琢磨してきたほか、技術と経営分野をリードする双璧として地域経済発展に大きな役割を果たしてきております。

一方、近年では少子高齢化が加速し人材の養成と確保が重要な経営課題となる中で、人口知能（AI）などの先端技術の飛躍的な進展や働き方改革、世界的な課題である地球温暖化に対応した事業戦略への見直しが進められるなど社会経済環境が激変してきております。

こうした時代にあっては、個別課題に対して迅速かつ的確に裁いていく、いわば総合的な危機管理を行っていくことが必要であり、そのためにも多様な能力を活かしながら新たな付加価値を創造し、果敢に未来を切り拓いていく人材がこれまで以上に求められております。

富山大学工学部および仰岳会におかれては、引き続き広く深い教養教育と専門的知識の習得はもとより、豊かな人間性を持ち独創的な研究能力を有する研究者や高度技術者の育成に取り組まれ、地域産業にとって欠かすことのできない高等教育機関として、さらなる発展をされますことをお祈りしております。

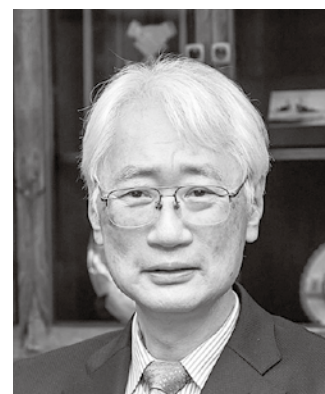
越嶺会としましては、両学部の交流をさらに進める取組みを行うことにより、それぞれの人材が相まみえて地域経済の成長につながることを期待しております。



仰岳会創立80周年記念祝辞

富山大学工学部・仰岳会 80周年記念誌 祝辞

富山大学長
齋 藤 滋



工学部とその同窓会、^{こうがくかい}仰岳会の80周年が無事迎えることができ、学長としてこの場を借りてお祝い申し上げます。

80周年を迎えるにあたり、令和5年10月には富山大学工学部の教育・研究における環境の整備や内容の充実による高度なもののづくり人材育成を図ることを目的とし、富山大学工学部基金を立ち上げました。同窓生の皆様、企業の皆様には、多数のご寄附をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

富山大学工学部は、その前身の高岡高等商業学校、高岡経済専門学校から昭和19年4月に高岡工業専門学校に転換され、昭和24年5月に国立学校設置法により富山大学工学部となりました。

その後、工学部は昭和59年9月から1年かけ、高岡からこの五福へ移転いたしました。工学部の歴史は高岡で40年、五福で40年ということになります。

富山県は、日本海側屈指の工業集積地でもあります。この富山県の工業ならびに経済を支えてきたのが富山大学工学部の卒業生の皆様です。今後も富山県の工業を支える人材を育成することは富山大学工学部の使命です。

富山大学では、工学部、理学部が中心となり、文部科学省の令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）に採択されました。今後は富山高等専門学校と連携し、富山県における高度情報専門人材（修士・博士人材）育成を促進いたします。

さらには、これまで持続可能な社会を目指した次世代の物質変換技術を開発する学術的基礎研究及びその社会実装を目指す応用研究を行うことを目的に、工学部に「カーボンニュートラル物質変換研究センター」を設置していましたが、令和6年2月に「カーボンニュートラル産業創生研究センター」として全学組織に発展させ、工学系の教員を中心にさらなる研究力強化と国際研究大学としての枠組み構築の実現を目指していきます。

同窓会会員の皆様に、「富山大学工学部は大きく発展した」と思っただけけるよう、100周年を目指して皆様と共に成長の歩みを強く進めてまいりたいと思います。

結びに、富山大学工学部の更なる発展と同窓会会員の皆様のご健康とご発展をお祈りして、ご挨拶といたします。

仰岳会創立80周年記念祝辞

自分の可能性が大きく広がった4年間

株式会社ModelingX 取締役 / CTO

織田 拳 丞
(知情 平成30年度卒)



このたび、富山大学工学部および仰岳会が設立80周年という輝かしい節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。このような記念すべき機会に、卒業生として祝辞を述べる場をいただき、大変光栄です。

少しだけ私の話をさせてください。

私は社会人になるまで、富山大学から西に歩いて30分程の呉羽という地域に住んでいました。小さいころから富山大学が身近にあり、また、母が富山大学の卒業生、少し憧れにも近い感情を持っていたことを覚えています。そんな富山大学に入学でき、さらにこうして80周年という節目に、卒業生として祝辞を執筆させていただいていることがなんだか信じられません。富山大学での4年間で、スキル、経験、友人と、本当に多くのものを得ることができました。起業してもうすぐ3年経ちますが、ここまで続けられたのは間違いなく在学中に得たスキルが基盤となっています。

現在私が共同創業した会社、株式会社ModelingXは富山大学の正面にオフィスを構えています。そのため、自然と富山大学生と交流する機会が増え、弊社のアルバイトとして事業に携わってくれている学生もいます。最初は仕事の進め方がわからないことが多いものですが、丁寧に教えることで学生たちは徐々に仕事の内容を理解し、自ら進んで取り組むようになることがよくあります。私が学生だったころに、このようにスキルを高めながら収入を得られる、あればいいなと思っていた環境を提供する側になっていることが誇らしい瞬間があります。今後も富山大学生と交流を増やし、お互いにとってメリットのある関係を築き続けていきたいと考えています。

最後になりましたが、富山大学工学部および仰岳会のさらなる発展と、教職員をはじめ関係者の皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。80周年、本当におめでとうございます。



富山大学工学部80周年記念行事報告

2024年7月27日、富山大学工学部と仰岳会は、工学部80周年記念行事を盛大に開催しました。本行事は、記念式典、記念講演会、そして懇親会の三部構成で行われ、多くの来賓や卒業生、関係者が一堂に会しました。

・記念式典

記念式典は14時30分に開始されました。まず、小熊規泰工学部長が挨拶を行い、工学部の歴史とこれまでの成果について述べました。続いて、仰岳会会長の末岡宗廣氏が挨拶を述べ、同窓生や関係者への感謝の意を表しました。



来賓として富山県知事の新田八朗氏、富山大学学長の齋藤滋氏から祝辞が贈られ、それぞれが工学部の発展と今後の期待について語りました。



新田知事は、工学部が地域社会に果たしてきた役割を強調し、齋藤学長は、教育と研究の両面でのさらなる飛躍を期待する旨を述べました。

式典では、工学部基金の紹介も行われました。この基金は、2023年10月に設立され、教育・研究環境の整備や内容の充実を目的としています。同窓生や企業から多くの寄附が集まり、総額22,953,000円（2024年7月27日時点）に達していることが報告されました。これにより、工学部の教育・研究活動が一層充実することが期待されています。

最後に、副工学部長の田端俊英氏が閉会の挨拶を行い、記念撮影が行われました。記念撮影は、全体のパノラマ写真と来賓のみのステージ上での写真撮影が行われ、参加者全員がこの特別な瞬間を共有しました。



富山大学工学部・仰岳会80周年



富山大学工学部80周年記念行事報告

・記念講演会

15時30分からは記念講演会が開催されました。最初の講演者は、富山大学経済学部卒業生で名誉博士の中尾哲雄氏で、「AIと通信」をテーマに講演を行いました。中尾氏は、AI技術の進展と通信技術の融合がもたらす未来について詳しく解説し、参加者に多くの示唆を与えました。中尾哲雄氏には、仰岳会から名誉会員の称号が贈られ、中尾氏は、名誉会員の称号を受け取り、感謝の意を述べました。

続いて、富山大学工学部知能情報工学科卒業生で株式会社ModelingXの取締役CTOである織田拳丞氏が「エンジニアとして起業するためのノウハウ」をテーマに講演を行いました。織田氏は、自身の起業経験をもとに、エンジニアが起業する際に直面する課題や成功のための戦略について語りました。特に、メタバースやVR、ARといった最新技術を活用したビジネスモデルの構築方法についての具体的なアドバイスが参加者の関心を引きしました。



両講演ともに、参加者から高い評価を受け、質疑応答の時間には多くの質問が寄せられました。講演会は、工学部の未来を考える上で非常に有意義な時間となりました。

・懇親会



17時30分からは、富山大学生協本店にて懇親会が開催されました。懇親会では、富山県副知事の佐藤一絵氏、富山大学名誉博士の中尾哲雄氏、株式会社ModelingXの織田拳丞氏など、多くの来賓が参加いただき、鏡開きが行われました。続いて、経済学部同窓会・越嶺会会長の伍嶋二美男氏による乾杯の音頭が取られ、参加者全員が和やかな雰囲気の中で歓談を楽しみました。

会場にはモニターが設置され、工学部80周年記念番組や仰岳会関東支部提供の写真が流されました。

これらの写真は、AI技術を用いてカラー化されており、当時の思い出が鮮やかに蘇りました。参加者は、懐かしい写真を見ながら、当時の思い出話に花を咲かせました。

懇親会の最後には、副工学部長の田端俊英氏の万歳三唱で締めくくられました。



この記念行事は、工学部の歴史と未来を祝う素晴らしい機会となり、参加者全員

富山大学工学部80周年記念行事報告



にとって有意義な一日となりました。今後も富山大学工学部のさらなる発展を期待しています。





工学部・仰岳会80周年記念コンペ

國 谷 吉 英（電気 昭和48年度修）

工学部・仰岳会80周年記念事業の一環として下記によりゴルフコンペを開催致しました。

80周年にあたります2024年はこれまでの猛暑日の日数を塗り替える7月、8月、9月と連続で例年を上回る暑い日が続きました。富山県でも毎年9月上旬に八尾で開催されています「おわら風の盆」の季節を過ぎましても「あえの風」等の秋風はいっこうに吹かず、連日猛暑日が続きました。

この猛暑日の中、参加申し込みされていましたが会員のキャンセルが相次ぎまして、最終的に参加者は10数名となりました。この猛暑日の中でも、金沢からお越しになられました89歳の方が最高齢で元気にプレイを楽しんでいらっしゃいました。また、コンペ終了後、参加者全員反省会に参加され、その席上コンペの成績発表がありました。（会長から参加者全員にキンキンに冷えたアイスコーヒーが振舞われました。）

成績順位は新ペリアでしたが、優勝者、準優勝者は東海支部からお越しになられました二名の方が勝ち取られ、日頃の腕前を披露されていました。ベストスコア賞は富山支部の方でこの猛暑日の中、89でラウンドされました。ブービー賞は名誉教授の先生でスコアは101でした。執筆者はスコア94の3位でした。皆さん日頃からゴルフを愛されているようで、なかなかの腕前でいらっしゃいました。

皆様方、和気あいあいと楽しくプレイされており、世話役としましてこの企画をさせて頂き本当に良かったと思いました。なお、ゴルフ場でコンペ前に撮った集合写真を掲載させて頂きました。

記

- | | |
|--------|--|
| 1. 開催日 | 2024年9月12日（木） |
| 2. 場 所 | 高岡カントリー倶楽部 頼成コース |
| 3. 時 間 | スタート時間9時20分
(集合時間は8時40分、受付時間は8時30分から) |



富山大学工学部基金は、令和6年度に設立80周年を迎えるにあたり、工学部・仰岳会80周年記念事業の一環として設立されました。この基金を通じて寄せられる寄附は、後輩たちの教育と研究の充実に直接的に活用され、より優れた教育研究環境の実現に寄与します。寄附金は、学生フォーミュラープロジェクトや学生ロボットコンテストプロジェクトなどの特定プロジェクトにも指定して寄附することができます。

また、寄附金は教員の研究活動にも活用されており、先端技術の開発や新しい教育プログラムの導入に役立っています。これにより、工学部の教育・研究の質が向上し、学生たちの学びの場がさらに充実しています。

富山大学工学部基金のホームページ <http://enghp.eng.u-toyama.ac.jp/kikin/>

個人：591名 企業：57社



年 表



年	富山大学工学部・仰岳会の歩み	日本・世界の動き
大正13年	・高岡高等商業学校設立	
昭和19年	・高岡経済専門学校に改称（3月） ・高岡工業専門学校に転換（電気科、機械化、化学工業化、金属工業科）（工学部の前身）4月	・学童集団疎開始まる
24年	・富山大学工学部創設。電気工業科、工業化学科、金属工業科を設置（5月）	・湯川秀樹 ノーベル物理学賞受賞
25年	・柏忠夫工学部長死去。鳥山喜一学長、工学部長事務取扱に就任（5月） ・石原寅次郎、工学部長に就任（8月）	・東京通信工業、日本初のテープレコーダー発売
26年	・富山大学高岡工業専門学校廃止（3月）	
27年	・金属工学科に機械専攻コースを置く（4月）	・対日講和条約調印
28年	・工学部同窓会設立準備会開く（2月） ・工学部同窓会設立総会開く。工専卒業生751名、大学（工学部第1回）卒業生69名で発足。会長は工学部長が当たり、石原寅次郎工学部長が会長就任（5月） ・横山辰雄、工学部長に就任（12月）	・NHKテレビ放送開始
29年	・第1回同窓会委員会で同窓会誌、会員名簿の発行を決定（2月） ・「同窓会誌第1号」、名簿を発行（5月）。その後、隔年で7号まで発行 ・同窓会総会開く。会則を改め、副会長を1名から2名とする（11月）	・第5福竜丸、米水爆実験で被災 ・自衛隊設置 ・東北大、シンクロトロン完成
30年	・機械工学科設置（7月）	・神武景気
31年	・委員会を開き、本年は総会を開かないと決定（5月） ・同窓会、魚津罹災会員に見舞金贈る（10月） ・同窓会総会開く（8月）	・科学技術庁設置
32年	・同窓会の経済的問題から、「同窓会誌」と「同窓会報」を交互に毎年発行することに決定	・国産ロケット成功 ・ソ連、人工衛星打ち上げに成功
33年	・「同窓会会報第1号」発行（12月）	
34年	・工学専攻科設置（4月） ・同窓会関東支部発足（4月） ・南日実、工学部長に就任（12月）	
36年	・野路末吉、工学部長に就任（4月） ・同窓会東海支部発足（5月）	



年 表

年	富山大学工学部・仰岳会の歩み	日本・世界の動き
昭和37年	・同窓会総会開く（8月）	・北陸トンネル貫通
38年	・生産機械工学科設置（4月）	・38豪雪
39年	・上野亨、工学部長に就任 ・工学部教授会、富山市五福地区移転を決議（5月）	・東京オリンピック ・新潟地震
40年	・化学工学科設置（4月） ・同窓会を改組し、会長を正会員より互選するなど会則を変更。山田尚司、会長に就任。工学部長は名誉会長となる（8月） ・この年、同窓会、父兄、学生の三者による五福移転促進協議会を結成し、文部省陳情などを行う	・気象庁富士山頂レーダー運用開始 ・日韓基本条約調印 ・朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞
41年	・富山大学評議会が工学部の五福移転を決議（5月）	・航空機事故相次ぐ ・ビートルズ来日
42年	・大学院工学研究科設置	・公害対策基本法
43年	・電子工学科設置。生産機械工学科に大学院工学研究科修士課程設置（4月） ・同窓会総会開く	・霞が関ビル完成 ・川端康成、ノーベル文学賞受賞
44年	・化学工学科に大学院工学研究科修士課程設置（4月） ・この年度より会報を毎月発行	・東大安田講堂封鎖解除
46年	・工学部移転用地を取得（～昭和48年まで）	・東京ゴミ戦争
57年	・五福地区移転決定（工学部跡地問題が決着） ・工学部新営工事の鍬入れ（3月）	・野辺山宇宙電波観測所開所
58年	・同窓会内に工学部移転記念事業計画委員会の発足事業の一環として工学部玄関にフレスコ画を寄贈（8月）	・NHKドラマ「おしん」放送 ・大韓航空機撃墜
59年	・工学部五福移転開始（昭和60年9月移転終了）	・グリコ森永事件
60年	・同窓会、工学部移転祝賀会を举行	・つくば科学万博
61年	・同窓会、高岡工学部跡地へ記念碑を建立。除幕式を举行（11月）	・チェルノブイリ原発事故
62年	・同窓会総会を開く。「富山大学工学部同窓会」を「仰岳会」に名称変更	・利根川進ノーベル医学・生理学賞受賞
平成元年	・電気工学科と電子工学科を改組し、電子情報工学科を設置（4月）	・中国天安門事件

年 表



年	富山大学工学部・仰岳会の歩み	日本・世界の動き
平成2年	・機械工学科と生産機械工学科を改組し、機械システム工学科を設置。工業化学科と化学工学科と金属工学科を改組し、物質工学科と化学生物工学科を設置（4月）	・イラクのクウェート侵攻 ・東西ドイツ統一 ・雲仙普賢岳噴火
5年	・仰岳会創立50周年記念行事実行委員会設置	・北海道南西沖地震で奥尻島壊滅
6年	・仰岳会創立50周年式典の開催 ・関西支部設立（11月）	・純国産ロケット打ち上げ
7年	・仰岳会創立50周年記念史発行	・阪神淡路大震災
9年	・電気情報工学科を改組し、電気電子システム工学科と知能情報工学科を設置。機械システム工学科を改組し、機械知能システム工学科を設置。物質工学科と化学生物工学科を改組し、物質生命システム工学科を設置（4月）	・アジア通貨危機 ・ダイアナ妃死去
10年	・大学院工学研究科を大学院理工学研究科に改称（大学院理学研究科を廃止）	・長野冬季オリンピック開催
13年	・富山支部設立（7月）	・アメリカ同時多発テロ事件
16年	・国立大学法人となる（4月）	・スマトラ沖地震
17年	・富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学を再編・統合し、富山大学となる（10月）	・愛知万博開催
18年	・石川・福井支部設立（7月）	・秋篠宮悠仁親王誕生
19年	・新潟支部設立（のちに、信越支部と改称）	・世界金融危機
20年	・物質生命システム工学科を改組し、生命工学科、環境応用化学科、材料機能工学科を設置 ・東北支部、中国支部、九州支部、北海道支部、四国支部が設立し、全国11支部が完成する	・リーマンショック
28年	・工学部総合教育研究棟の完成に伴いテラス家具一式寄贈	・熊本地震 ・英、EU離脱決定
30年	・工学部（電気電子システム工学科、知能情報工学科、機械知能システム工学科、生命工学科、環境応用科学科、材料機能工学科）を改組、工学科を設置	・西日本豪雨
令和4年	・大学院を改組し、3研究科2学環となる	・ロシア、ウクライナ侵攻



富山大学工学部80周年記念特集

富山大学工学部は2024年に創立80周年を迎えました。1944年に設立された工学部は、長い歴史の中で数多くの優れた技術者や研究者を輩出し、地域社会や産業界に大きな貢献をしてきました。

五福キャンパスへの移転とその意義

富山大学工学部は、高専転換以来40余年に及んだ高岡の地を離れ、1985年に富山市五福地区へ移転してから、工学部はさらに発展を遂げました。移転当初は多くの困難がありましたが、現在では最新の設備と充実した教育研究環境を誇るキャンパスとなっています。この移転は、工学部が地域社会と密接に連携し、地域の発展に寄与するための重要な一歩でした。

五福キャンパスへの移転は、富山大学全体の教育研究機能の充実を図るための戦略的な決定であり、地域の工業推進力としての役割を果たすことを目指しました。新しいキャンパスには、最新の研究施設や実験設備が整備され、学生や教職員が最先端の技術と知識を活用できる環境が整いました。また、敷地からは立山連峰を望むことができ、学びと研究に最適な場所となっています。

移転後、工学部は地域企業や自治体との連携を強化し、共同研究や技術支援を通じて地域産業の発展に貢献してきました。さらに、地域住民との交流や地域イベントの開催を通じて、地域社会との絆を深めています。このように、五福キャンパスへの移転は、工学部が地域社会と共に成長し、持続可能な発展を目指すための重要な基盤となっています。



富山大学工学部80周年記念特集

工学部の変遷

富山大学工学部は、設立以来、数々の改組を経て現在の形に至っています。特に、1994年には大学院工学研究科博士課程が設置されました。この博士課程の設置は、工学部の研究と教育の質を一層高めるための重要なステップであり、より高度な専門知識と研究能力を持つ人材の育成を目指しました。博士課程の設置により、学生は最先端の研究に取り組む機会を得るとともに、地域社会や産業界においてリーダーシップを発揮できる高度な技術者や研究者として成長することが期待されました。1998年には大学院工学研究科・理学研究科を大学院理工学研究科に改称するなど、大規模な改組が行われました。この改組は、工学部の研究と教育の質を向上させるための重要なステップでした。また、2005年には富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学が再編・統合され、新たな富山大学が誕生しました。この再編により、工学部はさらに多様な研究分野を取り入れ、地域社会のニーズに応える形で発展を続けています。以下は、工学部の変遷の概要です。

- 1944年：高岡工業専門学校として設立。機械科、化学工業科、電気科、金属工業科を設置。
- 1950年：富山大学工学部として発足。電気工学科、工業化学科、金属工学科を設置。
- 1955年：機械工学科を設置。
- 1963年：生産機械工学科を設置。
- 1965年：化学工学科を設置。
- 1968年：電子工学科を設置。
- 1987年：地域共同研究センターを全国に先駆けて設置。
- 1989年：電気工学科と電子工学科を改組し、電子情報工学科を設置。
- 1990年：機械工学科と生産機械工学科を改組し、機械システム工学科を設置。工業化学科と化学工学科と金属工学科を改組し、物質工学科と化学生物工学科を設置。
- 1994年：大学院工学研究科博士課程を設置。
- 1997年：電子情報工学科を改組し、電気電子システム工学科と知能情報工学科を設置。機械システム工学科を改組し、機械知能システム工学科を設置。物質工学科と化学生物工学科を改組し、物質生命システム工学科を設置。
- 2008年：物質生命システム工学科を改組し、生命工学科、環境応用化学科、材料機能工学科を設置。
- 2018年：工学部（電気電子システム工学科、知能情報工学科、機械知能システム工学科、生命工学科、環境応用化学科、材料機能工学科）を改組し、工学科（電気電子工学コース、知能情報工学コース、機械工学コース、生命工学コース、応用化学コース）を設置。材料機能工学科が都市デザイン学部材料デザイン工学科に移行。



富山大学工学部80周年記念特集

工学部の歴史と成果

富山大学工学部は、設立以来、多くの研究成果を挙げてきました。特に、地域産業との連携を強化し、技術革新を推進することで、地域経済の発展に寄与してきました。1987年には神戸大学、熊本大学とともに地域共同研究センターを全国に先駆けて設置しました。主要研究分野はメカトロニクス、電子デバイス、新素材、バイオテクノロジー、人工知能とシミュレーションの5分野であり、地域社会への技術支援と産学官連携の拠点として重要な役割を果たしてきました。また、2003年には文部科学省事業「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に新潟大学、長崎大学、富山大学の3大学工学部が共同で実施する「ものづくりを支える工学力教育の拠点形成」が採択され、本プログラムは「工学力」を身に付けた、日本の未来を担う優秀な工学者を育てる教育プログラムを実施しています。さらに、2007年には富山大学工学部敷地内に富山県新産業支援センターが開設されました。このセンターは、医薬バイオ、ナノテク、IT、環境などの新しい成長産業分野における研究開発型ベンチャーの育成を目的としており、産学官連携のもとで地域の産業振興に大きく寄与しています。2015年には富山大学工学部が創立70周年を迎え、新講義棟が竣工しました。この新講義棟は、多目的ホール、アクティブラーニングスペース、産学共同スペースを備え、現代の教育ニーズに対応した施設となっています。2020年からは、文部科学省の「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業」として、信州大学、富山大学、金沢大学の3大学が協働して「ENGINEプログラム」を開始しました。このプログラムは、地域基幹産業を再定義・創新することを目指し、学生が専門・学年・地域を越えて地域の課題解決に取り組む場を提供しています。学生は地域企業での課題解決型インターンシップを通じて実践力や創造力を磨き、地域の持続的な発展に貢献できる人材を育成しています。

工学部の研究は、地域のニーズに応える形で進められており、地元企業との共同研究や技術支援を通じて、実践的な成果を上げています。また、学生の教育にも力を入れており、実践的な技術教育を通じて、優れた技術者を育成しています。

工学部の未来

富山大学工学部は、これからも地域社会や産業界と連携し、持続可能な社会の実現に向けた研究と教育を推進していきます。次の10年、20年に向けて、さらなる飛躍を目指し、学生や教職員一丸となって取り組んでいきます。工学部は、最新の技術と知識を活用し、地域の課題解決に貢献することを目指しています。特に、環境問題やエネルギー問題に対する取り組みは、地域社会の持続可能な発展に寄与する重要な役割を果たしています。

80年の歴史を振り返りつつ、未来への展望を語るこの特集記事が、富山大学工学部のさらなる発展と地域社会への貢献を期待する一助となれば幸いです。富山大学工学部は、これからも地域社会と密接に連携し、持続可能な社会の実現に向けた研究と教育を推進していきます。

仰岳会歴代会長



・ 昭和28年5月3日（富山大学工学部同窓会創立総会）～昭和28年12月14日

石原寅次郎（工学部長）

任期7ヶ月

・ 昭和28年12月15日～昭和34年12月14日

横山 辰雄（工学部長）

任期6年

・ 昭和34年12月15日～昭和36年3月31日

南日 実（工学部長）

任期1年3ヶ月

・ 昭和36年4月1日～昭和39年3月31日

野路 末吉（工学部長）

任期3年

・ 昭和39年4月1日～昭和40年8月1日

上野 享（工学部長）

任期1年4ヶ月

・ 昭和40年8月2日～平成2年7月13日

山田 尚司（大・電気・昭和27年度）

任期24年11ヶ月

・ 平成2年7月14日～平成12年7月14日

松谷 武男（大・工化・昭和32年度）

任期10年

・ 平成12年7月15日～平成20年7月11日

高見 信行（大・機械・昭和42年度）

任期8年

・ 平成20年7月12日～平成30年7月27日

棚邊 一雄（大・機械・昭和44年度）

任期10年

・ 平成30年7月28日～令和4年7月28日

坂井 孝幸（大・電子・昭和48年度）

任期4年

・ 令和4年7月29日～令和5年7月21日

玉生 豊（大・電気・昭和52年度）

任期1年

・ 令和5年7月22日～現在

末岡 宗廣（大・電気院・昭和49年度）



仰岳会歴代副会長

・昭和28年5月3日
(富山大学工学部同窓会創立總會)
～昭和32年8月16日

吉山 鏝一 (大・工化・昭和27年度)

・昭和32年8月17日～昭和34年12月6日

吉山 鏝一 (大・工化・昭和27年度)

本田 右 (工・機械・昭和21年度)

・昭和34年12月7日～昭和36年8月20日

山田 尚司 (大・電気・昭和27年度)

本田 右 (工・機械・昭和21年度)

・昭和36年8月21日～昭和40年8月1日

山田 尚司 (大・電気・昭和27年度)

本田 右 (工・機械・昭和21年度)

・昭和40年8月2日～昭和45年8月25日

篠田 務 (大・金属・昭和27年度)

・昭和45年8月26日～昭和58年11月30日

本田 右 (工・機械・昭和21年度)

篠田 務 (大・金属・昭和27年度)

・昭和58年12月1日～平成5年12月6日

本田 右 (工・機械・昭和21年度)

篠田 務 (大・金属・昭和27年度)

多々 静夫 (大・金属・昭和29年度)

・平成5年12月7日～平成6年7月15日

増田 保 (大・電気・昭和31年度)

多々 静夫 (大・金属・昭和29年度)
※副会長代行

・平成6年7月16日～平成7年7月14日

増田 保 (大・電気・昭和31年度)

加藤 勉 (大・工化・昭和32年度)

・平成7年7月15日～平成8年7月5日

増田 保 (大・電気・昭和31年度)

加藤 勉 (大・工化・昭和32年度)

・平成8年7月6日～平成12年7月14日

浜谷 重治 (大・機械・昭和35年度)

加藤 勉 (大・工化・昭和32年度)

・平成12年7月15日～平成14年7月12日

浜谷 重治 (大・機械・昭和35年度)

長谷川 淳 (大・工化・昭和37年度)

・平成14年7月13日～平成16年7月9日

棚邊 一雄 (大・機械・昭和44年度)

長谷川 淳 (大・工化・昭和37年度)

・平成16年7月10日～平成20年7月11日

棚邊 一雄 (大・機械・昭和44年度)

穴田 博 (大・金属・昭和40年度)

・平成20年7月12日～平成23年7月15日

坂井 孝幸 (大・電子・昭和48年度)

石原 外美 (大・機械院・昭和48年度)

・平成23年7月16日～平成25年7月12日

坂井 孝幸 (大・電子・昭和48年度)

作井 正昭 (大・電気院・昭和48年度)

・平成25年7月13日～平成30年7月27日

坂井 孝幸 (大・電子・昭和48年度)

平澤 良男 (大・機械院・昭和52年度)

・平成30年7月28日～令和元年7月20日

玉生 豊 (大・電気・昭和52年度)

平澤 良男 (大・機械院・昭和52年度)

・令和元年7月21日～令和4年7月28日

玉生 豊 (大・電気・昭和52年度)

中 茂樹 (大・電子院・平成3年度)

・令和4年7月29日～令和5年7月21日

末岡 宗廣 (大・電気院・昭和49年度)

中 茂樹 (大・電子院・平成3年度)

・令和5年7月22日～現在

安田 勲 (大・電気・昭和59年度)

中 茂樹 (大・電子院・平成3年度)

仰岳会役員名簿



年度	総務担当	事業担当	会計担当
昭和41	嶋尾 一郎 (工化)	西部 慶一 (工化) 笹倉 壽介 (化工)	作道 榮一 (工化) 藤田 宏 (電気)
	多々 静夫 (金属)		
	時澤 貢 (生機)		
42			
43	北川 泰郎 (電気)	島崎長一郎 (工化)	品川不二雄 (金属)
44	大住 剛 (生機)	加藤 勉 (工化)	能登谷久公 (生機)
45	岩城 敏博 (機械)	長谷川 淳 (工化)	松木 賢司 (生機)
46	川田 勉 (電子)	穴田 博 (金属)	島崎 利治 (金属)
47	八木 寛 (電気)	連覚寺聖一 (工化)	三日市政司 (電子)
48	松田 秀雄 (電気)	嶋尾 一郎 (工化)	袋谷 賢吉 (電子)
49	多々 静夫 (金属)	宮腰 隆 (電気)	桑原 道夫 (電子)
50	西部 慶一 (工化)	笹倉 壽介 (化工)	寺山 清志 (金属)
51	作道 榮一 (工化)	時澤 貢 (生機)	川崎 博幸 (化工)
52	長谷 博行 (電子)	島崎長一郎 (工化)	品川不二雄 (金属)
53	加藤 勉 (工化)	石原 外美 (機械)	能登谷久公 (生機)
54	長谷川 淳 (工化)	大住 剛 (生機)	山田 茂 (生機)
55	松木 賢治 (生機)	岩城 敏博 (機械)	春山 義夫 (機械)
56	穴田 博 (金属)	島崎 利治 (金属)	吉澤 壽夫 (電気)
57	八木 寛 (電気)	作井 正治 (電気)	丹保 豊和 (電子)
58	三日市政司 (電子)	池野 進 (金属)	草開 清志 (金属)
59	松田 秀雄 (電気)	川田 勉 (共通)	酒井 充 (電子)
60	連覚寺聖一 (工化)	宮腰 隆 (電気)	森田 義則 (電子)
61	寺山 清志 (金属)	山本 辰美 (化工)	高辻 則夫 (生機)
62	島崎長一郎 (工化)	袋谷 賢吉 (電子)	山田 茂 (生機)
63	品川不二雄 (金属)	高瀬 均 (化工)	平澤 良男 (機械)
平成1	時澤 貢 (生機)	桑原 道夫 (電子)	吉澤 壽夫 (電気)
2	西部 慶一 (物質)	川崎 博幸 (化生)	田代 発造 (機シ)
3	石黒 隆義 (物質)	大住 剛 (機シ)	長谷 博行 (電情)
4	笹倉 壽介 (化生)	能登谷久公 (機シ)	砂田 聡 (物質)
5	長谷川 淳 (化生)	松木 賢司 (機シ)	廣瀬 貞樹 (電情)
6	加藤 勉 (化生)	石原 外美 (機シ)	塚田 章 (電情)



仰岳会役員名簿

年度	総務担当	事業担当	会計担当
7	岩城 敏博 (機シ)	中島 芳雄 (電情)	松田 健二 (物質)
8	佐々木和男 (電電)	作井 正昭 (電電)	中 茂樹 (電電)
9	池野 進 (物生)	草開 清志 (知情)	須加 実 (物生)
10	丹保 豊和 (電電)	松田 秀雄 (知情)	酒井 充 (知情)
11	穴田 博 (物生)	島崎 利治 (物生)	山根 岳志 (物生)
12	川田 勉 (知情)	山本 辰美 (物生)	丸山 博 (知情)
13	蓮覚寺聖一 (物生)	柴田 啓司 (知情)	星野由紀子 (物生)
14	寺山 清志 (物生)	平澤 良男 (機知)	森 雅之 (電電)
15	袋谷 賢吉 (知情)	高辻 則夫 (機知)	平田 暁子 (物生)
16	川崎 博幸 (物生)	田代 発造 (機知)	本田 和博 (電電)
17	作井 正昭 (電電)	砂田 聡 (物生)	木下 功士 (機知)
18	中嶋 芳雄 (知情)	松田 健二 (物生)	高松 衛 (知情)
19	高瀬 均 (物生)	中 茂樹 (電電)	川畑 常真 (物生)
20	平澤 良男 (機知)	森 雅之 (電電)	橋爪 隆 (材料)
21	山田 茂 (機知)	須加 実 (生命)	源明 誠 (環応)
22	田代 発造 (機知)	山根 岳志 (材料)	高野 真希 (生命)
23	酒井 充 (知情)	柴田 啓司 (知情)	山下 和也 (知情)
24	高辻 則夫 (機知)	本田 和博 (電電)	京極真由美 (環応)
25	砂田 聡 (材料)	木下 功士 (機知)	春木 孝之 (知情)
26	中 茂樹 (電電)	丸山 博 (知情)	金 主賢 (電電)
27	松田 健二 (材料)	高松 衛 (知情)	稲積 泰宏 (知情)
28	森 雅之 (電電)	山下 和也 (知情)	才川 清二 (材料)
29	須加 実 (生命)	源明 誠 (環応)	沖田 真吾 (機知)
30	山根 岳志 (材料)	森脇 真希 (生命)	高 尚策 (知情)
令和 1	本田 和博 (電電)	京極真由美 (応化)	室谷 惇司 (知情)
2	木下 功士 (機械)	金 主賢 (電電)	中路 正 (応化)
3	丸山 博 (知情)	沖田 真吾 (機械)	長谷川昌也 (知情)
4	高松 衛 (知情)	室谷 惇司 (知情)	船塚 達也 (機械)
5	源明 誠 (応化)	京極真由美 (応化)	岡田 卓哉 (生命)
6	沖田 真吾 (機械)	中路 正 (応化)	雷 振宇 (知情)
7	室谷 惇司 (知情)	長谷川昌也 (知情)	小澤 龍彦 (生命)

工学部年度別卒業生数



卒業回数	卒業年度	卒業生数
1	昭和27年度	69
2	昭和28年度	70
3	昭和29年度	66
4	昭和30年度	94
5	昭和31年度	77
6	昭和32年度	87
7	昭和33年度	89
8	昭和34年度	107
9	昭和35年度	99
10	昭和36年度	157
11	昭和37年度	165
12	昭和38年度	185
13	昭和39年度	198
14	昭和40年度	183
15	昭和41年度	215
16	昭和42年度	217
17	昭和43年度	231
18	昭和44年度	229
19	昭和45年度	235
20	昭和46年度	317
21	昭和47年度	286
22	昭和48年度	263
23	昭和49年度	239
24	昭和50年度	264
25	昭和51年度	303
26	昭和52年度	267
27	昭和53年度	319
28	昭和54年度	276
29	昭和55年度	299
30	昭和56年度	249
31	昭和57年度	295
32	昭和58年度	255
33	昭和59年度	275
34	昭和60年度	248
35	昭和61年度	274
36	昭和62年度	311
37	昭和63年度	273
38	平成元年度	325
39	平成2年度	280
40	平成3年度	315

卒業回数	卒業年度	卒業生数
41	平成4年度	325
42	平成5年度	354
43	平成6年度	372
44	平成7年度	363
45	平成8年度	410
46	平成9年度	403
47	平成10年度	386
48	平成11年度	437
49	平成12年度	447
50	平成13年度	420
51	平成14年度	406
52	平成15年度	462
53	平成16年度	448
54	平成17年度	454
55	平成18年度	408
56	平成19年度	419
57	平成20年度	441
58	平成21年度	435
59	平成22年度	435
60	平成23年度	423
61	平成24年度	426
62	平成25年度	415
63	平成26年度	403
64	平成27年度	416
65	平成28年度	417
66	平成29年度	419
67	平成30年度	435
68	令和元年度	408
69	令和2年度	417
70	令和3年度	354
71	令和4年度	348
72	令和5年度	345
73	令和6年度	355

(同窓会名簿による人数)



歴代工学部長

柏 忠夫	昭和24年 5 月31日～昭和25年 5 月13日
鳥山 喜一	昭和25年 5 月14日～昭和25年 8 月30日（事務取扱）
石原寅次郎	昭和25年 8 月31日～昭和28年12月14日
横山 辰雄	昭和28年12月15日～昭和34年12月14日
上野 亨	昭和32年10月25日～昭和32年12月14日（事務代理）
南日 実	昭和34年12月15日～昭和36年 3 月31日
野路 末吉	昭和36年 4 月 1 日～昭和39年 3 月31日
上野 亨	昭和39年 4 月 1 日～昭和42年 9 月30日
村中 利吉	昭和42年10月 1 日～昭和44年 9 月30日
室町 繁雄	昭和44年10月 1 日～昭和54年 4 月 1 日
大井 信一	昭和54年 4 月 2 日～昭和58年 4 月 1 日
位崎 敏男	昭和58年 4 月 2 日～昭和62年 4 月 1 日
作道 榮一	昭和62年 4 月 2 日～平成 3 年 4 月 1 日
多田 静夫	平成 3 年 4 月 2 日～平成 5 年 4 月 1 日
時澤 貢	平成 5 年 4 月 2 日～平成 9 年 4 月 1 日
宮下 尚	平成 9 年 4 月 2 日～平成13年 4 月 1 日
龍山 智榮	平成13年 4 月 1 日～平成17年 3 月31日
米田 政明	平成17年 4 月 1 日～平成18年 3 月31日
森 克徳	平成18年 4 月 1 日～平成20年 3 月31日
廣瀬 貞樹	平成20年 4 月 1 日～平成23年 3 月31日
石原 外美	平成23年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日
堀田 裕弘	平成25年 4 月 1 日～平成29年 3 月31日
會澤 宣一	平成29年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月31日
小熊 規泰	令和 5 年 4 月 1 日～現在



富山大学工学部・仰岳会80周年を記念して

東海支部長 宝 田 和 彦（機械 昭和48年度卒）

このタイトルで書き始めて、改めて80周年の重みを感じています。

まだ戦時中の1944年4月に前身の高岡工業専門学校が創立されてから80年。

どれほどの山谷を超えたか想像に難くありません。先生方をはじめとする学校の関係者、仰岳会会員の先輩方のご努力の積み重ねに感謝と敬意を表します。

私は富山大学工学部を卒業して50年になりますが、在学中の工学部校舎や敷地内にあった仰嶽寮は相当古く感じました。（私は富山の生まれ育ちで仰嶽寮には住んでいませんでしたが）既にそれなりの歴史も感じました。

卒業後、愛知県豊田市にあったトヨタ自動車工業

（現在のトヨタ自動車）に入社しました。同期入社のメンバーは全国各地の有名大学から集まっています。東大・京大・早稲田・慶応なども含め、特に大学に偏った傾向はなく感じました。そんな中で私自身も富山県唯一の大学で国立大学とのプライドを持って同期と接し、会社の仕事に取り組むことができました。お蔭をもって大変充実した会社生活を送ることができ富山大学工学部・仰岳会に感謝しています。その恩返しも含め、仰岳会東海支部の役員・幹事の皆さんと今後とも東海支部の活動を盛り上げていきたいと思います。本部・各支部の皆さんの変わらぬご支援・ご協力をお願いして80周年の記念の言葉とします。

東海支部 2025年度役員名簿

2025年4月1日～2026年3月31日

役 職	氏 名	学科・卒年度	役 職	氏 名	学科・卒年度
支 部 長	宝田 和彦	機 械 昭48年度	幹 事	花井 哲治	修機シ 平10年度
副支部長兼会計	山田 康司	生 機 昭56年度		猿渡 鉦司	電 気 昭55年度
幹事会計監査	藪谷 茂	機 械 昭51年度		阿部 健	修機シ 平 8 年度
幹事事務局長	荻巣 正洋	工 化 昭61年度		柴田 幸治	修機シ 平13年度
幹事事務局	杉浦 浩一	生 機 昭59年度		磯部 元希	機 知 平21年度
	水野 宏	機 械 平元年度	顧 問	坂本 知正	専電気 昭21年度
	田巻 昭雄	工 化 昭62年度		大原 幸二	金 属 昭27年度
	大野 誠一	生 機 昭57年度		鍋島 昇	電 気 昭35年度
幹 事	増田 勉	電 気 昭58年度		宮内 啓吉	機 械 昭39年度
	中根 秀行	修金属 昭61年度		高山 光直	機 械 昭41年度
	高作 一宏	修機シ 平 7 年度		上城 一正	電 気 昭38年度
				岩井 正己	電 気 昭40年度

支部だより 《関東支部》



関東支部長からの一言

関東支部長 平 尾 外志雄（生機 昭和50年度卒）

私が富山大学を卒業して今年で50年目を迎えました。振り返ってみますと、同窓会に関わり始めたのが仰岳会全国10支部体制の構築の中、東海支部設立が最初で次に関東支部が1992年設立いたしました。前年の1991年12月に設立準備委員会に有志が参加し、その一員として大先輩から勧められ、私も参加したのが始まりでした。

それから34年、今度は全国5ブロック体制が今年7月からスタート致します。関東支部は東日本ブロックに入り、支部活動は存続して行きます。

各ブロック、各支部の事情はそれぞれ異なっています。限られた新予算の中で活動して参ります。同窓つながりで年齢も違う初めて会う人と語らい合うのも良いものです。いままでいろいろな方々と出会い、楽しい一時や大変尊敬できる人との出会い、参加して良かったなどの思いを抱いています。関東支部会員の皆様今後も変わらずご協力ご参加のほど、お願い申し上げます。特に若い世代の方々にも楽しい一時を経験して貰いたいです。

2025年度 関東支部役員名簿

役 職	氏 名	卒業学科・卒業年度	役 職	氏 名	卒業学科・卒業年度
支 部 長	平尾外志雄	生 機 昭和50年度	会計委員	佐々木 誉	電 子 平成2年度
副支部長	吉田 英一	修工化 平成元年度	委 員	樋口 勝敏	電 子 平成2年度
監 事	伊藤 章倫	工 化 昭和47年度	顧 問	岡本 衛二	生 機 昭和44年度



支部長の一言

関西支部長 吉田 俊朗 (工化 昭和45年度卒)

工学部創立80周年おめでとうございます。昨年7月に工学部創立80周年の記念式典と懇親会が開催されました。学内での開催で、現役学生の皆さんと一緒に懇談する機会を得て、楽しい時間を過ごすことができました。仰岳会との接点が少ない現役学生に、どう仰岳会を理解していただくかが課題ですが、このような機会があれば、現役学生と仰岳会役員の距離を縮める事ができると感じました。

今年は区切りの良い年のようで、昭和でいえば100年、戦後80年、関西では阪神淡路大震災から30年となります。よく考えてみれば自分も支部長をお引き受けして10年になります。この間コロナによる活動自粛期間もあって実質6年の活動でしたが、時のたつのが早いというのを実感します。

AI、DXをはじめとする横文字の溢れる時代には残念ながらついていけない自分を見ると、時代に取り残された昭和人との思いが強くなります。同時に

とくに世代交代のタイミングを外していることを実感します。関わっている各種ボランティア団体でも同じことが言えますが、どこも会員数減少・会員の高齢化・活動のマンネリ化の三重苦に直面しています。時代に合わせた目的・目標を立て、うまく世代交代を進めた団体は、活発な活動ができています。

そんな各種団体の動きを見ていると、一時的に活動が停滞することがあるかもしれませんが、まず次の世代に手渡すことが大事だと感じます。交代に当たっては今までの活動をまとめておかないといけませんが、基本は任せる姿勢が大事だと思います。

80周年のお祝いのメッセージのつもりが、世代交代の話になってしまいましたが、関係するボランティア団体も同様に、組織運営のフォローに徹し、口を出さずに金を出す、爽やかに先輩になりたいと思っています。

2025年度 仰岳会関西支部役員

2025年2月28日

役 職	氏 名	卒業学科・卒業年度	役 職	氏 名	卒業学科・卒業年度
支 部 長	吉田 俊朗	工 化・昭和45年度	委 員	辰馬賢一郎	電子院・昭和54年度
副 支 部 長	岩本 猛	化 工・昭和45年度		仲山 寿	物 性・平成13年度
	稲崎 登	電 気・昭和47年度		二階堂俊裕	化 工・昭和47年度
監 事	青木 一章	化工院・昭和49年度	顧 問	佐治 重興	名 誉 教 授
会 計	岩田 憲二	工 化・昭和46年度		土居 武雄	金 属・昭和29年度
総務委員長	松永 健一	機 械・昭和47年度		林 茂明	電 気・昭和32年度
総 務 委 員	岩定 正	工 化・昭和48年度		小島紀二六	機 械・昭和36年度
委 員	伏喜 大治	金 属・昭和40年度		北村一三男	機 械・昭和36年度
	古城 紀雄	金 属・昭和41年度		坂井 龍吉	工 化・昭和37年度
	蓑島 邦臣	化 工・昭和47年度			

支部だより

《富山支部》



支部長より一言

富山支部長 加 藤 匡 章（電気 平成4年度修）

日頃から当支部活動へのご尽力およびご支援にお礼申し上げます。

去年は能登半島地震があり、大変な始まりとなりましたが、今年は穏やかな年明けを迎えることができ、日常のありがたさを感じております。いまだに復興途中の地域も多く、被災された全ての皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈り申し上げます。

富山の今冬は山雪型でしたが、2月には富山市街でも積雪深が50cm（昔に比べると少なくなりました）になり、消雪装置はフル稼働し、雪かき作業や重機による除雪があちこちで見られました。

富山に関する話題に、ニューヨーク・タイムズ紙で2025年に行くべき旅先として52カ所が発表され、日本からは「富山」と「大阪」が選出されました。「富山市ガラス美術館」は木と光でそびえたつ大聖堂とたとえられており、「おわら風の盆」や5つの飲食店（さっそく2箇所の飲食店に行ってきました）が紹介されています。是非とも市ガラス美術館の中心部や八尾の風情ある街並みを散策するのもリフレッシュ

シュになることとお勧めします。

さて、工学部・仰岳会が80周年となり、地元富山をはじめ全国に多くの卒業生を輩出しており、誇りに感じるとともに、これからも同窓生が連携するなどして、工学部・仰岳会の関係人口を増やしていければと思います。

富山支部の皆さまには、喜んで参加いただけるような機会を増やしていきたいと考えております。見学会等を通じて懇親を深め、人生の良い針路を示す機会になればと考えております。活動詳細は「富山支部だより」をご覧ください。支部HPも更新してきますので、多数のご参加をお待ちしております。

また、企業や職場の中で、先輩の方々と若い会員の皆さんと同窓の絆を深めることは、企業や同窓生の成長に役立つと共に、大学や仰岳会の発展にもつながる重要な鍵だと思っています。企業内の役員の皆さまには、職場における同窓会が人生の良き機会となりますように牽引をお願いいたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

支部だより

《石川・福井支部》



持続可能な社会変革への貢献

石川・福井支部長 奥村 善雄（物生 平成13年度卒）

自身の軸を大きくする挑戦のために学びを求めた富山大学の持続的な変革を心強く思う一方で、工学部・仰岳会創立80周年の記念すべき折に、ここに登場できる機会を与えられたことに心より感謝する次第です。

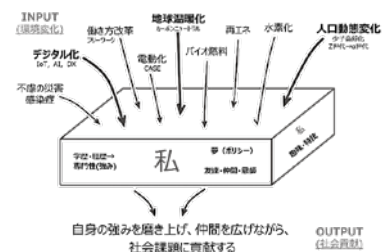
さて、小生の卒業年度をみると比較的若手に見えるかと思いますが、お前は何者か？から始めたいと思います。1995年に修士課程を修了し、社会人となってから30年の節目を迎えようとしています。卒業後にも縁あって大学に通う機会が得られたこともあり、社会人になっても大学との交流を長く続けることができ、当支部設立当初から役員として活動させていただき現在に至っています。特に、故穴田先生や名誉教授の佐治先生には在学中から暖かいご指導を賜り、小生の軸形成に強く影響していると懐かしく思い返されます。

支部だよりを個人の回想で終えるわけにはいきませんので、仰岳会会員（読者）へのメッセージを込めて、思いつくままに私見を少し述べさせていただきます。

持続可能性を求めて時代が大きく変わろうとしています。このままの社会活動スタイルではエネルギーや鉱物資源が枯渇し、世界全人口が日本スタイルで社会活動をするためには地球が2.8個、アメリカスタイルでは地球5個が必要であるとの試算もあります。

一つの地球で笑顔が広がる暮らしを続けていくため、社会のしくみを変える気概をもち、学生とか社会人といった区別なく、社会課題に向き合い、各自の強みと知恵を振り絞りながら改善・変革を積み上げていくことの重要性が高まる一方です。

誰一人取り残さずに力を併せて持続可能性を打開していくため、自身の強みを磨き上げ、変革に挑戦し社会課題に貢献することが重要である認識を持つことをお願いし、支部長の一言と致します。



石川・福井支部 2025年度役員名簿

2025年7月1日～2026年6月30日

役 職	氏 名	卒業年度 学科	役 職	氏 名	卒業年度 学科
支 部 長	奥村 善雄	平成11年度博 物生	委 員	吉田 隆	昭和49年度 機械
副支部長	川谷内珠俊	昭和55年度 電気		斉藤 修一	昭和49年度修 金属
幹事長・会計	舟木 克之	昭和56年度修 金属		梅崎 功	昭和53年度 生機
総 務	藤井 要	平成7年度修 物質		守口佐一郎	昭和55年度 機械
監 事	中村 進	昭和49年度 金属		室井 進	昭和56年度 生機
	黒田外四五	昭和46年度 電気		長谷 博史	昭和57年度 金属
顧 問	村 弘行	昭和43年度 生機		津田 武志	昭和61年度 化工
委 員	藤本 昭	昭和45年度 機械		三島 崇	平成4年度 電情情
	南 茂平	昭和46年度 電気		織田 会理	平成15年度 物生
	守部太美雄	昭和45年度 生機		串山 陽造	平成20年度 機知
	池村 直樹	昭和49年度 機械			

支部だより 《信越支部》



仰岳会の今後

信越支部長 塩 浦 時 宗 (生機 昭和47年度卒)

昨年、仰岳会の設立80周年記念式典が開催された。80年というと終戦前の1944年の設立ということである。1944年は高岡工業専門学校が創設された年であり、仰岳会は工業専門学校開設と同時に設立されたということで開催された。

高岡時代の工学部には、学生寮の「仰嶽寮・ぎょうがくりょう」があった。

私は寮生ではなかったが、仲間が寮生で寮にはよく行っていた。

寮生OBは「こうがくかい」ではなく「ぎょうがくかい」ではないのかと疑問を呈している。

19年ほど前に新潟県支部の設立準備委員会が設立され、公的機関にいた私は、たまたま準備委員長を仰せつかった。さらに新潟支部設立から4年後、それまで東海支部であった長野県と、新潟県を一緒にして、信越支部として再スタートしてほしいという本部よりの打診があった。新潟支部役員の一部には反対の意見もあったが、「信越」という概念は古くから一つのくくりとして存在する考え方であり、結果的には信越支部として組織化された。東海支部の設立は、当時の新潟県支部設立よりかなり早い時期であり、長野県出身の卒業生は東海支部の中でどういう位置付けであったのかと考えると、新潟県単独の支部を設立したのに、なぜ長野県支部を設立できなかったのだろうか。

仰岳会は財源が厳しいこともあり、支部制からブロック制に移行する。ブロック制への移行に伴い、オンライン会議などを使つての経費節減という本部の考えがあるようだ。オンライン会議とは、その内容によって取捨選択されるべきもので、何でもオンラインでということではないのではと思っている。

仰岳会本部での大きな事業としては、毎年7月開催の仰岳会総会と3月開催の卒業祝賀会がある。

総会には一般会員の出席がどれくらいあるのかわからないが、支部総会との併設であることを考えれば、本部総会への参加は決して多くはないと思われる。

また、我々の時代には卒業祝賀会なるものはなかったように思うが、祝賀会に出席した学生は、それ以降での仰岳会との縁はほとんど切れているのではなかろうか。仰岳会主催であるとすれば、もっと仰岳会に対する思いを印象付ける仕掛けを考えてはどうだろう。

仰岳会が郷愁だけではなく、必要な組織として存在するための方策を考える時期が来ていると思っている。

前にも提案したことではあるが、仰岳会を法人化してはどうかということである。一般社団法人で良い。法人化の最大のメリットは、対外的な信用力を高められるということであり、それにより、卒業生の信頼や期待が生まれるのではないだろうか。

支部だより 《東北支部》



「信を通わせる」には？

東北支部長 佐々木 超 悟（電気 平成6年度修）

富山大学工学部80周年、おめでとうございます！（結構歴史のある）私の勤める会社よりも長く、非常に感慨深く、嬉しく思います。昨年7月、私も記念行事に参加させて頂きました。改めてその生い立ち・歩みを確認し、記念講演では、織田拳丞様によるスタートアップの最先端技術・会社運営等、若くしていながらその考え・表現力に感銘を受けました。（記念行事詳細はHPをご参考下さい）

そんな中、特に私の心に残っているのは、同じく記念講演で中尾哲雄様よりお話あった「通信とは信を通わせること」という言葉でした。「信を通わせる」・・・皆さん、このように思っていましたか？私の不徳ではありますが、通信について、速く・大量に・安定して情報を送るということに思いが行き、「信を通わせる」ということに無頓着だったと感じました。思い当たることがあります。現在、私

は法人向け新規事業に関わる仕事をしてますが、展示会で来所頂いた会社様にフォローのメールをしても、会場では反応が良かったにも関わらず何も返答がありません、かなり多数に対してでもです。しかし、電話をすると案外面談が成立し、成約があったりします。また、何千件のフォーム送信よりも数少ない電話・面談の成約数が圧倒的に勝ります。これも、「信を通わせる」かどうかの違いでは？（一般汎用品等ではまた違うと思いますが）

さて、我々支部活動における参加人数は正直なところ芳しいとは言い難いところです。「信を通わせる」・・・これも何かヒントとなるかもしれません。

東北支部の皆様、まずは我々役員が皆様に「信を通わせる」発信をすべきではありますが、一度行事に参加して我々と「親を交して」みませんか？

支部だより 《中国支部》



中国支部 新支部長就任にあたってのご挨拶

中国支部長 福田 眞一（機械 昭和49年度卒）

2024年7月より前任の吉田様から中国支部長を引き継がせて頂いた岡山県玉野市在住の福田眞一（ふくだしんいち）と申します。就任にあたり簡単に自己紹介させていただきます。

1952年6月東京都杉並区生まれの現在72歳です。4歳で富山市岩瀬に移り、岩瀬小・岩瀬中・富山中部高校を経て富山大学工学部機械工学科に入学し1975年3月卒業後、三井造船株式会社（現 三井E&S(株)）に入社、岡山県玉野事業所機械工場機械工作部機械課に配属となり、機械加工生産技術者としてサラリーマン人生をスタートし、以来今年で50年玉野市に居住しております。

私の会社人生については仰岳会会報第46号の中国支部便りで「振り返れば、サラリーマン人生40年！！」と題して寄稿させて頂いておりますのでそちらをご覧頂ければと思いますが、その後2021年1月（68歳）まで勤務した後、縁あって内海観光開発(株)玉野ゴルフ倶楽部取締役に就任し、2023年12月（71歳）まで約3年間勤務してサラリーマン人生を終えました。

中国支部との関わりは、2008年（H20年）3月15日に設立総会を実施する半年前の2007年9月に開催

された準備委員会への出席を津崎副委員長、大根幹事から懇請されたことが始まりでした。当時は古巣の機械加工部門に異動したばかりでかなり忙しかったのですが、仕方がないなという思いで参加したのが運のツキ（？）で会計、監査、幹事、副支部長等の役員を経て、この度設立以来16年余りの長きに亘り支部長を続けて戴いていた吉田英人様の後任という大役をお引受するハメに至っております。

現在仰岳会では種々の要因による入会者の減少、予算縮小、活動維持が困難な支部への対応等で支部制からブロック制への移行が決定され、運営方法の本部方針が示されるのを待っている状況です。中国支部でも連絡できる会員が約100名程度に減り、中国5県の間でも濃淡があります。

このような状況下、同窓会（仰岳会）をいかに活性化していくかが議論されていますが、大手企業内での大学同窓会や卒業学科同期の中での同期会などは盛んに開催して盛り上がっているところもあります。まだ漠然としておりますがこれからの同窓会活動・組織の在り方のヒントにならないかと思案しているところです。

中国支部 2024年度役員名簿（2024. 7. 1～2025. 6. 30）

役 職	氏 名	卒業年度	学科	役 職	氏 名	卒業年度	学科
支 部 長	福田 眞一 (岡山在住)	S 49年度	機械	幹 事	廣保 智久 (広島担当)	S 54年度	化工
副支部長	橋本 祐二 (岡山在住)	S 51年度	生機		曾我 真一 (山口担当)	H元年度修	工化
	高桑 聖 (広島在住)	S 53年度修	電気		小川 和郎 (鳥取・島根担当)	H10年度修	物質
会 計	平岡壯一郎 (岡山在住)	S 53年度	化工		三宅 直生 (岡山担当)	S 52年度修	化工
監 査	蜂谷 典孝 (岡山在住)	S 48年度	化工	特別顧問	吉田 英人 (広島在住)	S 47年度	化工

支部だより 《九州支部》



支部長就任のご挨拶と 九州支部設立時を振り返って

九州支部長 割 澤 泰（機械 昭和48年度修）

九州支部支部長に選任されました割澤 泰（ワリ サワ ヤスシ）と申します。石川県金沢市の出身です。福岡市に2011年に移住しました。九州支部では、2018年度から庶務幹事を勤めており、このたび支部長の重責を担うこととなりました。

私たちの九州支部会員も年々高齢化が進んでおります。役員会、総会にご出席する方々の顔ぶれが、だいたい決まっているということで、非常にさびしく思っております。今後の会員数増加の希望的観測として次のことが挙げられます。熊本をはじめ九州各地で、半導体産業および周辺技術を生かした企業が進出しつつあります。これに伴い、卒業生が他支部から九州地区に短期間にせよ転勤することも考えられます。そういう情報をお持ちの方は、ぜひとも九州支部事務局にご一報をいただきますよう、お願い申し上げます。

九州地区で連絡が不可能となった会員には、九州地区内の移動のほかに、他地区への転勤、高齢のためのご逝去などがあります。最近増えたのは他地区に住む子供さんあるいは親御さんの所へ移住するケースが多くなったことです。個々のご事情があるかと思いますが、日本の社会問題の一面をみているようです。

さて、九州支部は平成20年（2008年）2月23日に第1回支部設立準備委員会を発足し、同年10月18日に設立総会が開催されました。故津田篤信氏（金属 昭和36年度卒）が初代支部長に就任しました。これらの経緯については、下記に詳しく載っています。

①会報第39号P10・11「九州支部」設立に向けて・設立趣意書…松倉慎一郎氏（金属 昭和38年度卒）
②会報40号P57～59＜支部だより＞どっぷり漬かった多忙の一年…津田当時支部長

これらの設立時の足跡を読みますと、当時のご苦労がうかがわれます。当時の設立時の会員数は67名で、2024年12月の会員数は79名です。大学の所属学生がふえているにもかかわらず、会員数の増加が追いついてない状態です。また、当時の支部役員で現在も役員をお願いしている方が6名いらっしゃいます。現役の方は設立時でほぼ半数、現在もほぼ半数の方が何らかのお仕事に携わっています。会員のご経歴を拝見しますと、九州支部には実務に秀でた能力を保持しておられる方々がおおぜいいらっしゃいます。支部では若い卒業生が先輩から学びやすいように、メンター制度を導入し、交流の機会を増やす事業を考えています。九州支部だけでなく、新しくブロック化となる西日本ブロックの皆様にもぜひご協力を賜りますようお願い致します。

この取り組みを通じて、支部活動がさらに発展し、全ての世代の卒業生が楽しめる場となるよう小職も努めてまいります。

ここで、お願いです。九州に在住しているのに支部ニュースや総会案内が届いていない方がおられるかと思います。このような方およびその方をご存じでしたら、ぜひ事務局まで情報をお寄せください。

皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い致します。まして、新支部長就任のご挨拶とさせていただきます。

支部だより 《四国支部》



「時の流れを感じる80周年」

四国支部長 喜 多 功 司 (工化 昭和52年度修)

富山大学工学部は高岡高専を源流として、戦後の新制国立大学を経て法人化された富山大学の工学部と組織変革をしてきました。

漢詩の一句に「盛年重ねて来らず 一日再び晨なり難し 当に勉励すべし 歳月は 人を待たず」とあり、この句は、時の流れは速く歳月は人を待つものではなく、その機会を逃さず充実した時を過ごしたいものだと思っています。

小生は、昭和47年に富山大学工学部入学後、はや51年が経過しました。振り返って、その時々によく努め励んで勉強し、充実した時を過ごせたかと反省した時、描いていた成果は得られなかったかもしれないが、沢山のひと々と出会い、教えられたり、励まされたりしながら、苦悶しながらも幸せな時を刻んできたと思っています。

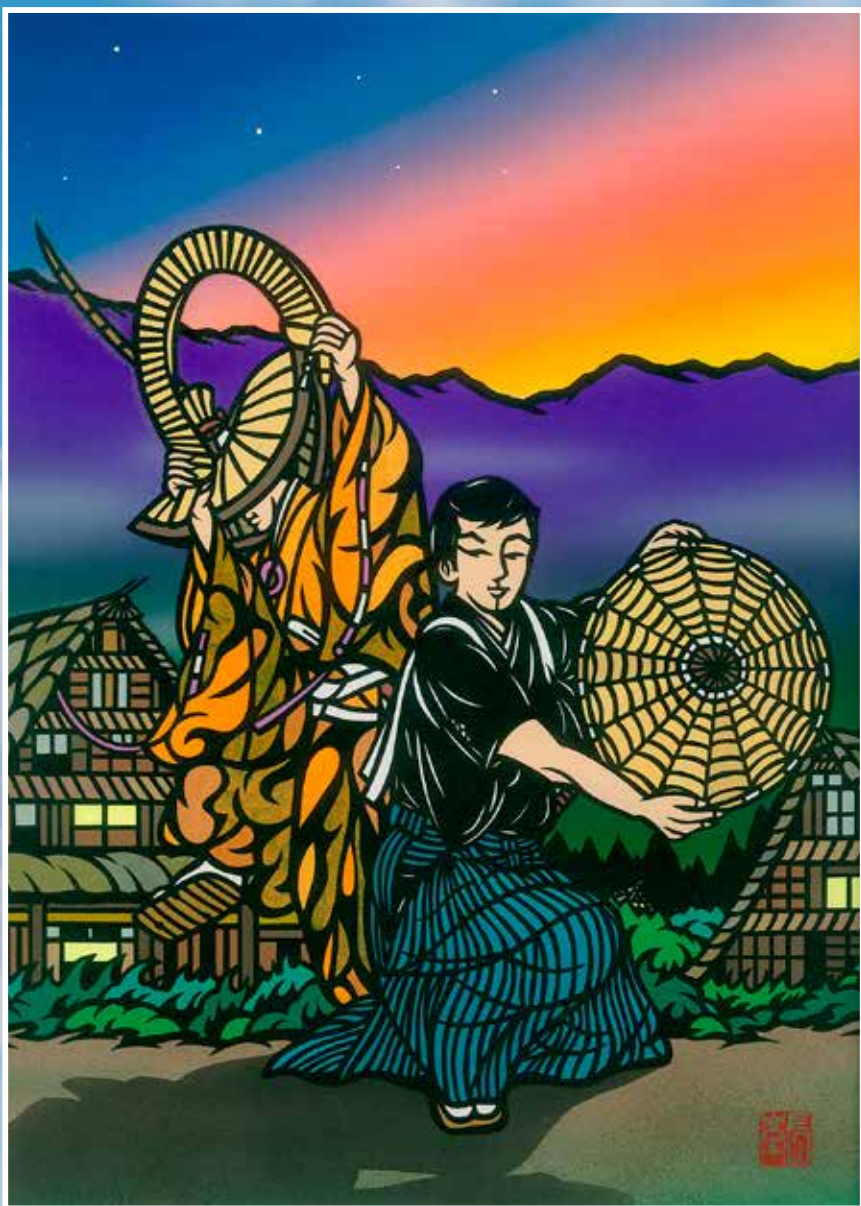
大学では、五福で2年程の一般教養の講義を受け、高岡で工業化学学科の講義や実験の日々を過ごし、研究の道を目指しましたがかないませんでした。社会人となり、営業の面白さに気づき、この道を続けていくと思っていましたが、転機があり、企業経営の指導分野に進み、63歳まで勤めて参りました。現在は、野菜栽培等の農業をしながら、地域コミュニティー活動をもしております。

さて、富山大学工学部同窓会仰岳会は、令和6年7月27日に在学生も参加して80周年記念式典が開催されました。様々な交流が図れたように感じました。一方、四国支部仰岳会活動は、平成19年末頃、今は亡き初代支部長の長峰さんから仰岳会の全国規模での組織化が展開していることを知らされて、平成20年4月19日には、当時の本部の高見会長、穴田副会長を高松に迎えて、四国支部設立準備会を開催しました。これを機に、設立に向けての活動を開始しました。平成20年の7月には新居浜、11月には高知に出向いて設立に向けての説明会を行い、平成21年2月14日、仰岳会四国支部の設立総会を高松で開催しました。以来15年の間、会員の一泊研修や企業視察研修なども実施しましたが、現在は、参加者が減少し、継続の危機に見舞われています。

仰岳会活動も卒業生間の絆を保ちつつ、会員のニーズや時代の要請に応えられる組織活動が求められて要るのかもしれません。

余談ですが、小生は昭和28年に生まれ、第1回富山大学工学部同窓会仰岳会総会が同年に開催されております。仰岳会の活動に参画でき、今もメンバーであることに何か不思議な縁を感じております。

今後、富山大学工学部同窓会仰岳会の益々の盛会を祈念しております。



平の祭

こ
仰 かく 岳 かい 会

富山大学工学部同窓会

〒930-8555 富山県富山市五福3190
(富山大学工学部内)

TEL・FAX (076) 445-6704(直通)

E-mail tkougaku@eng.u-toyama.ac.jp

ホームページ <http://www3.u-toyama.ac.jp/tkougaku/>